

カナンの園設立委員会は今から47年前の1971年1月16日、盛岡市のキリスト教センター善隣館で第1回委員会が開催され、結成しました。

実行委員長に就任された伊崎正勝先生（その後初代理事長に就任）は、アメリカ訪問直後であり、アポロ計画におけるケネディ大統領の勇気ある決断について述べております。

当時、真空管計器しかない状況で1960年代に月へ人類を到達させる目標を設定したケネディ大統領の実行力を称えた就任の挨拶が、カナンの園機関誌第1号に掲載されております。

現状のアメリカを囲む国際情勢と当時を比較して、世界の歴史の流れの変化を興味深く感じざるを得ません。

当時のケネディ大統領就任演説の「国があなたのために何をしてくれるかでは

なく、あなたが国のために何ができるかを考えようではありませんか」という大切な内容が、実は米沢藩主であった上杉鷹山の伝国の辞を参考にしていたことが、キャロライン・ケネディ大使の証言から真相が分かったことが報告され、驚きませんでした。

リハビリテーション医学の開拓者であるラスク教授が、「リハビリテーションとは人生に年月（物理的時間）を継ぎ足すだけでなく、（延長された）年月に生命をつかっことである（Rehabilitation is not only to add years to life, but also to add life to years）」と述べていますが、そのつぎ込む生命とは何かという問題を、我々の共通課題として受け止め、生命（いのち）を「生きがい」「活動・参加」に置き換え、生命（いのち）に真剣に正面か



社会福祉法人カナンの園
理事長 及川 忠人

ら取り組む努力と、日頃の神様への祈りが大切であると反省する昨今です。

第7次将来像計画検討の中でカナンの園の将来像を大きな夢と希望とを持ちつつ進みたいと願い、多くの支援者の方々に感謝しております。

昨年7月に天に召された私の最も尊敬する故日野原重明先生の残された「Keep on going! 前進あるのみ!」の言葉を大切にしながら新しい時代への一歩を歩み出したいと心から願うものです。

さらなる叱咤激励をお願い申し上げます。

TSK カナンの園

125

No.125
発行日/2018年7月15日
編集/社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町
中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

社会福祉法人カナンの園
理事長
及川 忠人

Keep on going! 前進あるのみ!

編集者 社会福祉法人カナンの園

〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-361-026

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会（略称TSK）

〒981-0907 宮城県仙台市青葉区高松二丁目四一〇 頒価百円

●お知らせ

●—————今年の9月は、行事が目白押しです。どうぞ今のうちからご予約ください。

- 9月8日（土）
小さき群の里事業所建物完成感謝祭
会場：小さき群の里事業所
- 9月15日（土）
さんあいカナン祭
会場：三愛学舎
- 9月16日（日）
ヒソプ工房カナン祭
会場：ヒソプ工房
- 9月29日（土）
後援会主催
カナンの園奥中山地区事業所見学会

それぞれの開催時間や内容など、詳しいことは事務局または各事業所にお問い合わせください。ホームページにも順次掲載していきます。

あとがき

カナンの園は、5年毎に将来像計画を策定し、自分たちの歩みを振り返りつつ、その時々にあった役割を考えています。第6次将来像計画は、2017年度で終え、2018年度から第7次将来像計画の5カ年が始まりました。カナンの園に関わる者たちが、先達からの理念を確かに引き継ぎ、さらに次の世代へと託していくという流れの中で、この5年間をどのように送るかが、問われています。

カナンの園は、これまで知的障がいのある方々との関わりを主な役割としながら、45年を超える歴史を歩んできました。「施設にあった人をつくるのではなく、その人の成長の必要に応じた環境づくりをする」との理念により、地域に小さな拠点を作りながら“個”に配慮することを心がけてきました。もちろん、その中には、悔いも反省も多く含まれ、それを詫びながら次の歩みを進めてきた歴史でもあります。

他方、この間、社会情勢も大きく変容してきました。様々な尺度で人と人の間に線が引かれ、様々な理由で社会的弱者が生み出されてきています。その中で、カナンの園には、障がいのある方々と共に培ってきたものを活かし、すべての人が社会の構成員として孤立することがなく、また排除されることのない包括的な社会をめざすことが求められています。

新しく与えられた小さき群の里事業所の建物が、各事業所が、そしてカナンの園に関わる一人ひとりがそのような働きを与えられていることを胸に刻みながら、次の一歩を踏み出そうとしています。皆さまのお交わり、そしてご支援が大きな力になっています。

（佐藤真名）



●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナンの園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

カナンの園法人事務局

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山
字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
郵便振替 02330-6-6631
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

社会福祉法人カナンの園

- 福祉型障害児入所施設 奥中山学園
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 ゆいまある
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 小さき群の里
☎0195-35-3080 FAX 0195-35-2780
- 共同生活援助事業所 ののさわ
(グループホーム1～6)
☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
- 生活介護事業所 ヒソプ工房
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 共同生活援助事業所 HANA
(盛岡地区グループホーム1～6)
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 特定相談支援事業所 らぼーる
☎019-656-6863 FAX 019-656-0553
- 生活介護事業所 シャローム
☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884
- 就労継続支援B型事業所 ウィズ
☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
- 多機能型事業所 福祉工場カナン牧場
☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
- 共同生活援助事業所 美空
(グループホーム1～10)
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 居宅介護事業所 れもん
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 障害児相談・特定相談支援事業所 むつび
☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840
- 多機能型事業所 となんカナン
☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
- カナン市場（カナンの園商品一括取扱所）
☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

学校法人カナン学園

三愛学舎（特別支援学校高等部・知的）
☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

本誌は再生紙を使用しています。

限定パン誕生!

それは昨秋のある日、職員の会話から始まりました。

「ハロウィンでいろんな商品が並んで、盛り上がりしていますね」

「牧場にイベント向けの商品がほしいですよね」

「とりあえず企画して、やりませんか」

「従業員が作れるパンになったら良いね」

「でも、大量生産は厳しいよね」

「では、限定パンで販売してはどうでしょう」

との会話をきっかけにカナン牧場内の販売促進委員会で検討を始めた。限定パンを通して、従業員がより主体的にパン製造に関わり、スキルアップや仕事へのモチベーション、達成感に繋がることを願って、またイベント感や季節感があり、



限定パン第1号「おぼけパン」。

親しまれる商品を毎月1商品提案することになりました。

試行錯誤を重ねてようやく完成。販売初日を迎え、従業員やお客様に受け入れを終わりました。しかし、やってみて初めて見えてくる課題もありました。

「出勤時間が異なるから、従業員全員が製造に関われるわけではないね」

「関われない従業員は、別の形で商品に関われないかな」

「従業員が描いた絵を商品ラベルに載せたら楽しそうだね」

と、従業員の皆さんに向けてイラスト募集のお知らせをしました。数日後に元気な声で「描きました」と応募用紙と共に候補作が集まりました。

その後も限定パンでは、その都度募集



前川美香さんの絵が採用されたゆきだるまパンラベル。

したイラスト入りラベルを製作し、それぞれが関わりながら、カナン牧場の皆の心がもった渾身の一品を作りました。ラベルに自分のイラストと名前を見て「家族に見せたい」と喜んで買って帰宅する従業員もいて、そんなふう喜んでくれる姿や笑顔が、カナン牧場で働くみんなのモチベーションを高めています。

そして、今ではお客様から「次はどんな限定パンなの」「いつから販売になりますか」と、声をかけられることもありま

す。10月のハロウィンでのおぼけパンと、

かぼちゃパンの2品から始まり、1月はくるみパン、2月はゆきだるまパン、3月はお花パン、4月はよもぎ大福あんパン、5月は桜あんパン、6月はてるてる坊主パンと続いてきました。限定パンとして月日は浅いですが「継続は力なり」で、着実に広がりを見せてきています。

今後、従業員のスキルに磨きがかかり、限定パンの中から長く愛される商品が生まれるよう、皆で力を合わせていきます。

「物語のあるパン屋」のカナン牧場に、今日も新たな物語を加え、これからもみんなで手を取り合い、限定パンのコンセプトでもある「遊び心」も



ゆきだるまパン製作中。

思いや願いが凝縮されて

奥中山開拓団副団長として戦後開拓に入られた野澤さんご一家から寄贈された土地に建てられていた入所施設を建て替え、高齢化していく利用者の皆さんや圏域のニーズにどのように応えていくか、3カ年計画で取り組んできました。

設計された建築のコンセプトは、①自然と人、人と人が共に生きる②光に満ちた建物③木へのこだわり④大地への思いを繋ぐなどで、それを何度も協議を積み重ね具体化を進めてきました。

法人建設委員会は33回、工程会議は43回に及びました。昨年8月の定礎式を以て工事が開始され、記録的な降雪という厳しい自然環境の中、工事に携わるすべての方々の士気は下がることなく、一人ひとりの高い技術と丁寧な仕事で建物が創り上げられていきました。利用するすべての方々が



自然豊かな景観の中に力強く建つ新事業所。

安心して通え、昼食弁当作りを中心とした就労の場としても用いられる約700㎡の建物は、6月29日に竣工を迎え、7月1日から事業開始となりました。これまでこの事業のために多くの方々のお祈りとご支援を賜り、竣工できましたことを心から感謝申し上げます。

(小さき群の里事業所所長 中嶋隆)

「表彰されるの2回目だなあ」

「いわて・きららアートコレクション」に、初めて描いた絵を出展した泡瀬孝作さん、いきなり奨励賞をいただきました! 表彰式には「本人とお母さん、職員の3人で参加しました。」

表彰式で、孝作さんがポツリ、「表彰されるの2回目だなあ」と。聞いてみると以前に働いていた会社で永年勤続25年の表彰を頂いたことがあるそうです。お母さんも「ここまで長かったね」とポツリ。28年勤めた会社をわけあって退職し、病院に通いながら自宅にこもりっぱなしだった孝作さん。お母さんとしてはやっとなりの社会との繋がりを実感できた出来事だったのかもしれない。

となんカナンに通い始めて、1年数カ月が経ちます。当初はなかなか出勤できず、「仕事」という言葉に敏感で、となんカナンが安心して通える場所であることを感じるまで時間がかかったのだと思います。



受賞作を前に記念写真。

また、絵を描くことを通して、自信を取り戻した時間でもあったのではないかと思います。奨励賞おめでとうございませす。これからもゆつくり、ゆつくりと、となんカナンで、よろしく願います。

(となんカナンサービスマネジメント責任者 刈屋百恵)

加えるのを忘れず、もっと笑顔が増えるよう、美味しいパンと共に幸せをお届けします。

なお、限定パンは、毎月12日(パンの日)をメドに、カナン牧場エビと三戸店、産直奥中山高原様で2週間程販売しています。数に限りはありますが、通常のパン同様ご注文も承っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

(カナン牧場・販売促進委員会 田口英和)

石けん作業棟の改修工事完了



新しくなった作業棟。プレハブの建物が外観も内部も見違えるように生まれ変わりました。

これまでの石けん作業棟は、冬はストーブを焚いても室内は氷点下。作業中ははかじかみ、足先がジンジン冷えてくる。逆に夏は「午後は暑すぎて危険！」と、

30度を超えた屋外で、涼む。日々。梅雨どきは室内に舞った粉石けんが滑る床をそろりそろりと歩く。「そんな環境で働いてこそ4課（※）だ！」と前任者からの引き継ぎに、何とはなしに納得していた私。メンバーは「暑っつい！」「寒むっ！」とグチを吐きつつ、それでも毎朝勇んで作業棟に向かい作業をこなす。そんな姿を見ると、この作業棟は彼らにとつてかけがえのない場所であるように感じられていました。

このたび、建築から約20数年、歴代の利用者や職員の想いが詰まった作業棟が約3カ月の改修工事を終え、エアコンが付き、壁には断熱材が入り、滑らない床^レになりました。

生まれ変わった作業棟に「すごい！」「キレイだなー！」「あったかい！」と感動の声。しかし何より自分たちの活動の場がまたココにあることの喜びを全身で表わしています。今日もキレイになった作業棟を汚し（ー）、またそこを掃除しながら新たな歴史を刻んでいます。

（ヒソップ工房主任 西澤道徳）
※ヒソップ工房は、作業4課体制。4課は石けん・BDF製造班

歳時譜

生徒の皆さんに教えられて

三愛学舎との出会いは、専攻科が設置された頃の20年以上前になります。初めは専攻科で余暇活動として藤細工を教え、昼食を生徒の皆さんと一緒に食べて帰っていました。

数年後、本科の縫工科という作業科で教えることになり、菱刺し（田南部藩に伝わる刺し子の技法の一つ）を中心に活動しました。

ある時、私がいつものように裁ちばさみを使い机の上に置いていたら「借りた物は元の場所に戻しましょう」とある生徒さんに言われることがありました。ハツとし、当たり前のことができていなかったと反省しました。私に注意してくれたその青年は、三愛学舎を卒業してから20年近く経ちますが、今も関わりがあり裁縫を続けており、最近、公募展で賞を受賞しました。卒業しても続けてもらえると何よりも嬉しいです。

三愛学舎で活動していると、教えているつもりが、私の方が教えられていると感じることがたくさんあります。生徒の皆さんはたくさん卒業しましたが、私は卒



「生徒の皆さんから元気をもらっています。」

ことばひろい 第23回

「ただいま」「おかえり」

奥中山学園
阿部和佳子

忘れられない場面があります。二十数年前、奥中山学園で職員としてお世話になって2年目の入園式の日でした。入園の行事が終わり、親御さん方が帰られる時、新入園の子どものお兄さんとお母さんが玄関に向かって歩いていました。お兄さんは、前を歩くお母さんの背中に向かって泣きながら叫びます。「どうして？ どうして○○だけ置いていくの？」一緒に連れて帰ろう！。お母さんは、唇を結べ

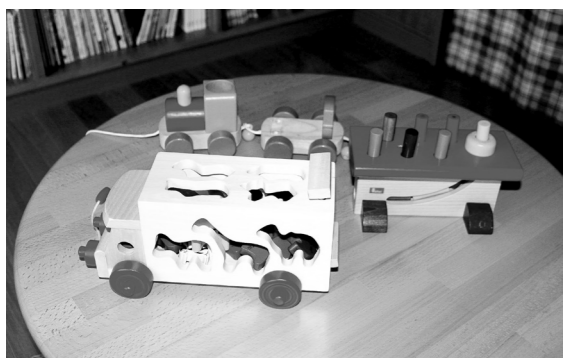
んで小さく「仕方ないんだ」とつぶやき、なだめながら振り返らずに玄関から出て行ったのです。当時は、小学校入園と同時に入所する子どもがほとんどでした。私は、子どもたちと一緒に笑ったり、いろいろなことに取り組んだりする毎日を嬉しく楽しく思っている毎日でした。親御さん方は、いつでも笑顔やユーモアで私たちを支えてくださっていたので、そんな悲しみやつらさを目の当たりにしたのは

初めてでした。その親御さんも次にお会いした時には、笑顔で私たち職員に「いつもありがとうございます」と言葉をかけてくださいました。年齢が下の職員に大切な子どもを預けることは不安だったことでしょう。それでも私たちが支えてくださるご家族の皆さんに、申し訳なく、ありがたく思っていました。お預かりしている大切な子どもたちに、そして支えてくださるご家族の皆さんに対して、

何ができるだろうか。その出来事をきっかけに楽しいだけではいけないと、考えるようになりました。当時の勤務は交代勤務で、朝と夜の職員が異なることが多かったです。家庭になることは決してできないけれど、子どもたちが帰りたいと思っている「おうち」に近い暮らしについて考えるようになりました。奥中山学園全体でも小舎制について語られていて、様々な視点から話し

合いや実践が行われていました。

ある日、担当していた子どもに添い寝をしていると「帰るの？」と、ポツリと言われたのです。家に帰りたくても帰れない子どもに「帰る」とはいえず、言葉に迷っていると「帰っていいよ」と静かにいい、私に背中を向けたのです。子どもたちの悲しみややりきれなさ、あきらめの気持ちを感じ、ショックを感じたことを今も覚えています。私は「おはよう」「いってらっしゃい」と朝にあいさつをした職員が「おかえり」と出迎える暮らし、「おやすみ」といった職員が朝に「おはよう」と声をかける暮らしをしたと考えました。そんな当たり前のやり取りの繰り返しのうちに、どつしりと心を落ち着け安心して暮らせる居場所ができるように思いました。子どもたちが求める暮らしはどんなものか、当たり前前のごが温かく整



えられることの大切さを、子どもたち、そして親御さん方に教えていただきました。

その後、一旦、カナンの園からは離れ子育ての時間をいただいていたのですが、縁あって数年前から再び奥中山学園でお世話になっていきます。私が大人になる時に、大切な時間を子どもたちと過ごした奥中山学園は、私の人として立つ時の原点です。いつか、またお世話になりたいとずっと願っていました。今は、入所ではなく、通所のゆいまあるで午前の発達支援や下校後の放課後等デイサービスで子どもたちと過ごしています。入所の生活ではないので、安心した暮らしとは離れませんが、家庭に帰るまでの時間を安心して過ごせる「居場所」であればいいなと思っています。学校でたくさん頑張ってきた子どもたちが、ゆつくりと気持ちを整えて、フツと体と気持ちをリラックスできる場所でありたいです。短い時間の中ではありますが、言葉で、目で、表情で、体温で、距離で、同じ場所にいることで、温かい雰囲気を保つことで、あなたのことを思っているよ、大切に思っているよと伝えたいと思っています。温かいたずまいの中で、将来に繋がる今を、じつくり丁寧に積み重ねたいと思っています。

今日も「ただいま！」と元気な笑顔で帰ってくる子どもたちを「おかえり」と迎えて、一緒に時間を過ごすことができることを楽しんでいます。

社会福祉法人カナンの園 2017年度 決算報告 （単位：円）

*詳しい内容等は当法人ホームページをご覧ください。

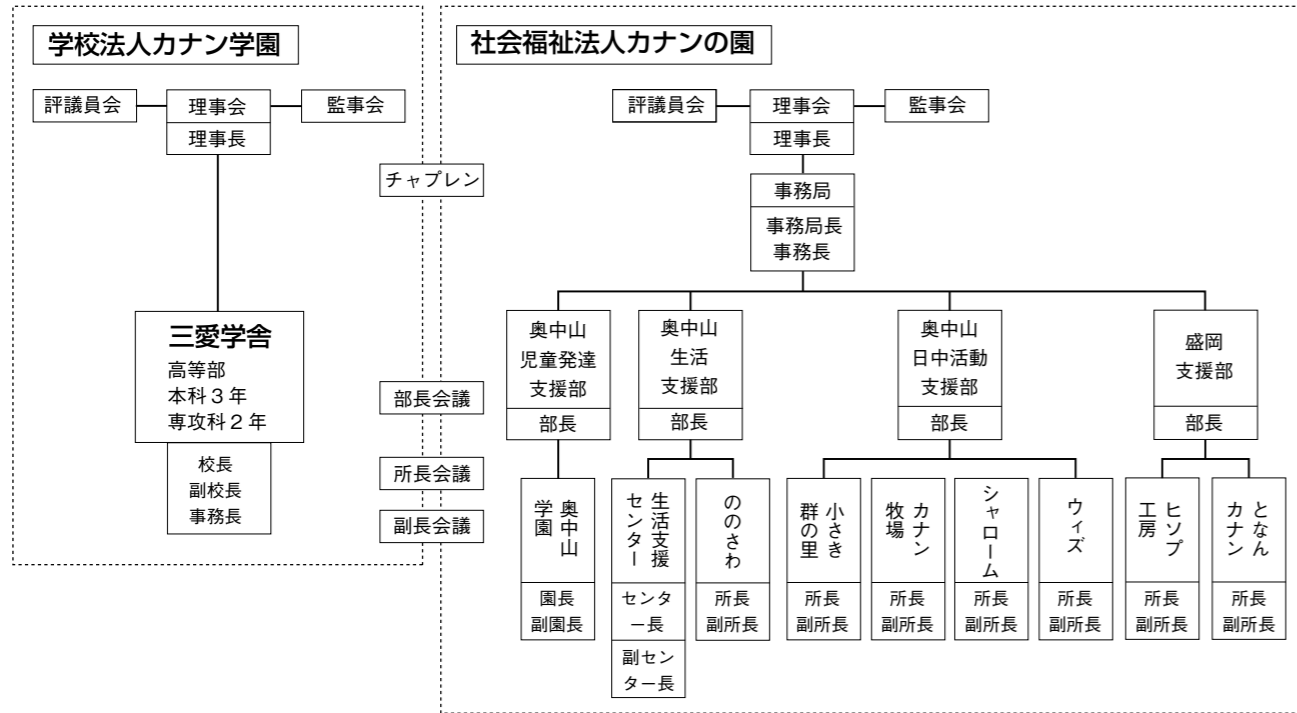
社会福祉事業会計

事務局、奥中山児童発達支援部、奥中山生活支援部、奥中山日中活動支援部、盛岡支援部等の5拠点区分を合算したものです。

貸借対照表			
2018年3月31日現在			
資産の部		負債の部	
流動資産	999,080,857	流動負債	66,305,067
固定資産（注①）	1,226,789,647	固定負債（注②）	197,201,532
		負債の部合計	263,506,599
		純資産の部	
		基本金	511,975,824
		国庫補助金等特別積立金	339,590,560
		その他の積立金	297,483,418
		次期繰越活動収支差額	813,314,103
		（内、当期活動収支差額）	140,813,637
		純資産の部合計	1,962,363,905
資産の部合計	2,225,870,504	負債・純資産合計	2,225,870,504

- 注：
- ①固定資産額の内訳の内、基本財産は、土地72,446千円、建物678,087千円等です。
 - ②固定負債の内訳は、福祉医療機構借入金135,660千円、車両リース債務1,938千円、岩手県社協退職引当金52,573千円、退職給与引当金7,030千円です。
 - ③サービス事業活動収益の内、給付費等の収益は1,013,644千円、就労支援事業収益は179,608千円、寄付金収益は9,660千円です。
 - ④サービス事業活動費用の内、人件費は707,693千円、事業費・事務費は248,695千円、就労支援事業費用は184,846千円です。
 - ⑤サービス活動外の収益は、障害者雇用調整金、利用者等外給食費収益等です。
 - ⑥特別収益は施設整備補助金収益、特別費用は国庫補助金特別積立金取崩（除却等）です。

2018年度 カナンの園組織図



法人の運営

1 運営方針

「わたしたちは神さまにつくられた大切な一人ひとりとして生かされている」という（人間存在の「いのち」）そのものへの揺るぎない価値観によって創立されたカナンの園の46年目の歩みを始めるにあたり、私たちカナンの園に関わる者たちには、絶えずその基本理念に立ち返ることが求められています。

理念の具現化に向けて、カナンの園では5か年計画を策定し、歩みを進めています。

2017年度に終えた第6次将来像計画の中で、中心的な事業は、旧入所施設小さき群の拠点施設を建設することでした。建設工事は2018年度にまたぐこととなり、7月には多機能型事業所として開始する見通しとなりました。多くの方々の折りと支えによって与えられた建物を、有効に活用すること、また、他の事業所においても、それぞれのニーズに応じていくことが「障がい者といわれる人々を中心として、すべての人が互いに尊重しつづつ助け合って生きていく社会の実現」に繋がるものと考えています。

2018年度は、第7次将来像計画の初年度に当たります。事業を直接担う職員の確保と育成は、大きな課題であり、めざすべき職員像とその道筋の「見える化」として、行動指針とキャリアパスの策定を行ってきました。2018年度中に形とし、研修と組み合わせることで成果に繋げていきたいものです。

他方、社会的に弱い立場に置かれ、福祉サービスを利用することで、より充実した日々を送りたいと願っている方々に対し、支援する立場にいる者たちも、また人間的な弱さを抱え、事故や過ちに繋がる危うさに絶えず心を配り、細心の注意を払い続けることが福祉事業の現

場に求められています。関わる一人ひとりの自覚と支え合いによって、安心と安全を確保していくことが重要です。これらを踏まえ、以下の重点項目を掲げ取り組むこととします。

2 運営の重点

- ①基本理念の学びと内実化を行う。
 - ②部局制運営と拠点会計の安定化を進める。
 - ③理事会と現場とが課題を共有し、対応できる運営をめざす。
 - ④人材の確保と育成を行い、実務技術力の向上を図る。
 - ⑤健康管理体制と安全管理、防災体制の充実を図る。
- (2) 初年度となる第7次将来像計画の事業内容を実施する。
- ①小さき群の里事業所の建物を完成させ、多機能型事業所としての事業を開始する。
 - ②中山地区、盛岡地区でのG.H建て替え、防災対策など、生活の場の再整備を行う。
 - ③生活介護事業所、就労支援事業所の環境整備を行うと共に、修繕・入れ替えの必要な機械の整備を行う。
 - ④法人全体の製品販売を総合的に取り扱う「カナン市場」のさらなる充実を図り、販路拡大や顧客ニーズに応えていく体制整備を強化して、カナンの園の製品販売促進を展開する。
 - ⑤相談支援事業の安定と充実を図る。
 - ⑥人材不足と多様な雇用形態が求められる社会情勢にあつて、多様な雇用形態の導入、勤務時間外労働対策などの見直し・検討を行う。

社会福祉法人カナンの園役員

- 理事長**
及川忠人
- 理事**
齊藤芳弘
坂水かよ
真山重博
森田友明
佐藤研司
佐藤真名
阿部孝司

監事

- 花松行雄
秋山信愛
大信田康統

社会福祉法人カナンの園施設等管理者

- **法人事務局**
事務局長 佐藤真名
参事 伊藤繁夫
事務長 笹森雅弘
- **奥中山児童発達支援部**
部長 岡崎俊彦
園長 岡崎俊彦
副園長 向井由祈
- **奥中山生活支援部**
部長 山館憲行
生活支援センター センター長 山館憲行
副センター長 戸田清志
- **奥中山日中活動支援部**
所長 浅沼俊一
副所長 長内正敏
- **奥中山日中活動支援部**
部長 薄正仁
所長 小さき群の里
副所長 中嶋隆
服部勉

- **カナン牧場**
所長 山崎敏夫
副所長 釜石登
- **シャローム**
所長 薄正仁
副所長 尾崎努
- **ウイズ**
所長 薄正仁
副所長 南館晋也
- **盛岡支援部**
部長 阿部孝司
ヒソプ工房 所長 阿部孝司
副所長 鈴木直人
- **となんカナン**
所長 高橋正彦
副所長 猪又平

学校法人カナン学園役員

- 理事長**
齊藤芳弘
- 理事**
及川忠人
本間邦彦
角谷晋次
澤谷常清
伊藤和彦
- 監事**
花松行雄
栗田良実
- **三愛学園**
学校長 伊藤和彦
副校長 岩崎崇
事務長 箱崎浩二